

平成 26 年度 新学術領域研究（研究領域提案型）審査結果の所見

| | |
|--------------------|---|
| 研究領域名 | 新生鎖の生物学 |
| 領域代表者 | 田口 英樹（東京工業大学・大学院生命理工学研究科・教授） |
| 研究期間 | 平成 26 年度～平成 30 年度 |
| 科学研究費補助金審査部会における所見 | <p>本研究領域は、特定領域研究「タンパク質の社会」（平成 19～23 年度）、新学術領域研究「多様性と非対称性を獲得する RNA プログラム」（平成 20～24 年度）で得られた成果を基盤に、新生ポリペプチド鎖が関わる多様な生命現象の包括的解明を目指す計画であり、前身領域とは異なる「新生鎖のバイオロジー」という新しい研究領域の創出を目指す提案である。新生鎖の未知機能に着目した切り口が斬新であり、学術的な意義、他分野への波及効果も大きく新学術領域研究として妥当である。</p> <p>比較的若い優れた研究者を中心に組織された体制で、新生鎖のフォールディング・修飾・局在化、翻訳速度調節、品質管理の 3 つの視点からの解析に加え、新手法の開発を目指す研究計画が練られており、着実に成果を挙げることが期待される。一方で、計画研究間の連携の努力は認められるが、具体的にどのように有機的な連携を図るのか、より具体化することが必要である。試験管内再構成系など、重要かつ特殊な実験技術の共有化や技術分析を総括班で支援する体制が生まれ、研究推進に効果的であると評価される。大腸菌で構築された無細胞翻訳系（ピュアシステム）を真核生物に適用するシステムを完成させ共有する段階にまで持って行くことは、本領域研究が広いインパクトを持つための鍵であるが、そのためには一層の努力と戦略が必要であろう。</p> <p>領域マネジメントについては、領域代表者は、これまでの実績から適切にリーダーシップを発揮することが期待できる。また、若手育成への配慮もあり、組織構成は妥当である。</p> |